

平成二年（一九九〇）

3・31 現代班打合せ（川鍋委員、橋本・

高崎・田村・田中調査員）

4・3 「上巻」執筆担当者打合せ（和田・

久保田・北原委員）

4・6 民俗班研究会（森田・浅井・橋本・

保坂・横地・木下・山崎調査員）

町井・松本調査員）

4・26 行政資料調査（橋本調査員）

5・1 民俗班研究会（森田家衣類）

5・2 民俗班研究会（森田家衣類）

5・7 第53回編集専門委員会

（通史編執筆要綱について）

5・14 民俗班研究会（衣類・屋敷神）

5・18 行政資料調査打合せ（橋本・柚木・

松本調査員）

5・25 民俗班研究会（資料編に向けて、

河上委員他）

5・29 近世班研究会（千人同心）

6・4 「資料編近世3」入稿

6・8 民俗班研究会（衣類）

6・19 民俗班研究会（衣類）

6・22 都公文書館調査

6・27 都公文書館（玉川上水資料調査）

6・29 「資料編近世3」初校出る

6・30 加藤家文書調査（桜沢一昭氏、峰

岸・宮田調査員）

7・6 民俗班研究会（河上委員他）

7・10 民俗班研究会（衣類）

7・11 マイクロ撮影始まる

7・13 第54回編集専門委員会

（上巻の構想、年表等について）

7・16 資料編作業指導（新井委員）

7・19 民俗班研究会

7・24 民俗班研究会（衣類）

7・31 「近代・新聞資料（昭和）」刊行

8・6 行政資料調査（川鍋委員）

8・13 民俗班研究会（河上委員他）

8・14 統計調査（川鍋委員）

8・15 行政資料調査（新井委員）

8・21 民俗班研究会「近世3」全校出

8・27 民俗班研究会（編集計画作成）

9・10 第55回編集専門委員会議

9・19 民俗班研究会

9・20 中世班打合せ（久保田委員他）

9・25 民俗班研究会

9・26 民俗班研究会

9・28 民俗班研究会

10・1 旗本長塩氏調査（茨城鹿島郡鉾

田町史編さん室、北原委員、田淵・

立川・高崎・峰岸・宮田調査員）

10・2 民俗班研究会

10・8 資料調査（新井委員）



平成二年三月三十一日
平成三年一月三十日

近世班研究会（峰岸・高崎・宮田
調査員）

4・13 新聞資料編打合せ（新井委員、佐

藤調査員）

4・16 編さん状況調査（青梅市、滝沢氏）

4・17 民俗班調査打合せ（屋敷神）

4・19 近世編執筆者会議（北原委員他）

4・24 現代班打合せ（橋本・高崎・柚木・

10・17	民俗班研究会		「福生市史の原始・古代編」
10・19	地方史研究協議会大会の郷土誌フェアー参加		和田 哲氏
10・22	研究視察(福島県二本松市)		「宗門帳の分析」 桜井昭男氏
10・29	第56回編集専門委員会		第57回編集専門委員会
11・1	玉川上水開削工事跡(水喰土)が市史跡に指定。	12・20	(市史下巻の構成他)
11・2	資料抽出(新井委員)		民俗班研究会(河上委員他、民俗資料編原稿編集)
11・9	民俗班研究会		銚田町より視察(旧長塩支配下の町民二七名と町史編さん室長) 長塩氏墓地のある福生院に墓参し、郷土資料室をみる。
11・17	現代班打合せ(川鍋委員、高崎・橋本・田村調査員、資料編構成、作業計画の検討)	12・26	行政資料調査(川鍋委員)
11・22	平成二年度刊行計画の検討(室)		平成三年(一九九一)
11・26	近世執筆者会議(北原委員他)	1・4	みずくらいど編集(新井委員)
12・1	みずくらいど編集(新井委員)	1・5	現代班打合せ(川鍋委員、橋本・高崎・田村・長谷川・田中調査員)
12・5	民俗班研究会(資料編編集)	1・10	民俗班研究会
12・11	民俗班研究会(河上委員他、資料編編集)	1・21	民俗班研究会
12・14	ところの碑撮影(五日市町光厳寺)	1・23	第58回編集専門委員会
12・15	福生市史公開講座	1・25	(市史下巻の構成)
		1・27	多摩郷土誌フェアー参加
		1・30	民俗班研究会(河上委員他)

編集後記



◇「みずくらいど」と全く同じ体裁・編集の市史研究誌が、複数出現したのには驚いた。第一号のスタイルを決めるのに悪戦苦闘した担当者としては、いささか複雑なおもいがしたが、真似されるものがでてくると、「みずくらいど」も広範にひろまったということなのだろう。私としては、これを機会に、福生市史らしい、よりオリジナルな「みずくらいど」を目指して、一歩先を進まなければならないところだ。それには、市民読者の皆さんの強力なバックアップと、積極的な参加が欲しい。毎度、お願いしていることだが、投稿はもちろん、資料や写真、市史に関するあらゆる情報の提供を改めてお願いしたい。ともかく、より多くの市民がかかわってつくりあげる市史、これが念願なのです。第九の合唱が市民会館に鳴り響いたあの感動は、わが住む街の歴史をつくりあげる仕事にもぜひ活かしたいんです。

◇「この人に聞く」は新登場です。モボともいえる橋本氏の戦前・戦後の話は、福生市史の近現代の圧巻です。

◇編集担当は和田哲・新井勝紘

(新井記)

みずくらいど 12号 (福生市史研究)

平成3年(1991)3月30日 発行

編 集 福生市史編さん委員会

発 行 福 生 市
〒197 東京都福生市本町5番地
電 話 0425(51)1511

印 刷 株式会社 精 興 社
〒198 東京都青梅市根ヶ布1-385番地
